



Title	デンマークの中央行政組織departementの日本語訳をめぐって
Author(s)	新谷, 俊裕
Citation	IDUN. 2003, 15, p. 67-92
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95601
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

デンマークの中央行政組織 *departement* の 日本語訳をめぐって

新谷 俊裕

1. はじめに

本誌の月号は菅原邦城教授還暦記念特別号である。その菅原先生と本学名誉教授の間瀬英夫先生および大阪大学の堀井祐介先生との四人で現在デンマーク語 - 日本語小辞典の編纂作業を進めているが、デンマーク語の単語の訳語をめぐっていろいろと苦勞することが多い。例えば、デンマーク語の単語を日本語に訳す場合に、その対象物を知らなかったり、知っていてもそれが日本には存在せず、そのために日本語でどのように呼ぶのかが分からないことが多々ある。そしてこのような場合に誤訳が生じる可能性があることは、海水魚類を例にして拙稿(新谷 2001)で指摘したとおりである。

デンマーク語の単語で、筆者がこれまで気になっていたものの1つに *departement* がある。この語の発音は [ˌdepɑdəˈmɑŋ]¹ で、無理を承知でカナ表記をすると“ディパデマング”となろうか。この *departement* は中央行政機関を指すことばで、デンマークの新聞などで比較的頻繁に見かけるものであるが、筆者にはその実態が今ひとつよく分からず、日本にそれに対応するものが存在しているのか、もし存在すれば何なのか、もし日本に存在しないとすれば、どのような訳語、あるいは説明を当てればよいのかが分からず、これまでずっと気にかかっていた。

デンマークで出版されているデンマーク社会に関するハンドブックやデンマークの百科事典などを見ても、政治や行政を専門の研究分野としない筆者には *departement* の日本語訳として何を当てれば良いのか決定できかねていた。本稿では、デンマークの *departement* に関してハンドブックやデンマーク中央省庁のホームページ等で調べた上で、行政学を専門とし、デンマーク社会に関心を抱いておられる高知短期大学の水谷利亮先生のお力を特にお借りして、デンマーク語の *departement* の日本語訳を求めたいと思う。²

2. 文献に見る *departement* の日本語訳

本稿ではデンマーク語の *departement* の日本語訳を求めようとしているわけであるが、実は日本語の文献でその日本語訳を示しているものが皆無であるというわけではなく、次の2点の文献がある。

その1つは、デンマーク語 - 日本語辞典として現在唯一存在する古城・松下(1993)である。同辞典では *departement* は、見出し語の形に誤植があり *department*

となっている点は本稿では特に問題にしないが、訳としては〈部門、分野、省〉を載せている（古城・松下 1993: 105）。このうち中央行政機関の *departement* の意味としては〈省〉を当てていることになる。しかしデンマークで省を表すことばは *ministerium* であることは確実であり、実際、古城・松下（1993）でも見出し語 *ministerium* に〈内閣(の省)〉の訳がついており、*ministerium* が〈内閣〉のほか〈省〉を意味することが示されている。つまり、古城・松下（1993）では、*departement* と〈省〉を意味する場合の *ministerium* とがまったく同一のものを指すのか、あるいは、英国の事情、すなわち the Department of Education 〈教育省〉、the Ministry of Defense 〈国防省〉、the Foreign Office 〈外務省〉などのように *department*, *ministry*, *office* の3語を〈省〉の意味で用い、何省であるかによって使い分けている英国の事情（竹林ほか 1994、小西 1999、近藤・高野 1988）のように、デンマークでも何省であるかによって *departement* と *ministerium* を使い分けているのか、あるいは英国とはまったく別の事情になっているのかが分からない。しかし筆者のこれまでの経験から言って、デンマークの事情が英国の事情に似て、*departement* が *ministerium* と同レベルの組織であり、共に〈省〉と訳すことができるということは考えられない。むしろ *departement* は *ministerium* の中にある組織であるという印象がある。³

また、上記の古城・松下（1993）のほかにデンマーク語の *departement* の日本語訳を示しているものにベタション（1998）がある。同書はデンマークの中央行政機構を説明する箇所、「デンマークの中央行政機構は、省 (*ministerium*) に分割されている。しかし、デンマークにも、省 (*departement*) という語はあり、直接に大臣のもとにある公務員スタッフを指す。」（ベタション 1998: 125）としている。この説明から *departement* は「直接に大臣のもとにある公務員スタッフを指す」のであるから、*ministerium* 自体とは別のもので、*ministerium* の中に含まれるものであることが窺える。それにもかかわらず、*ministerium* と *departement* との両方に〈省〉という同一の訳語が当てられており、上記の引用箇所は日本語としては意味の通じない説明となっている。筆者が想像するところでは、スウェーデンの学者であるベタションはスウェーデンの事情を出発点にしてデンマークの事情を説明しているのであろう。すなわち、スウェーデンには *ministerium* という組織/名称はなく、省を表すことばは *departement* 〈行政省〉である。一方、デンマークで省を表す名称は *ministerium* であるが、デンマークにもスウェーデンの *departement* 〈行政省〉に相当する名称/単語である *departement* があるが、このデンマーク語の *departement* は *ministerium* 〈省〉そのものを表す名称ではなくて、「直接に大臣のもとにある公務員スタッフを指す」ものである、というのがベタションの言わんとすることであろう。⁴ このことは、*departement* は *ministerium* の

中にある組織であるという、前述した筆者の印象に通じるものである。

ところで, *departement* の長 (*chef*) は *departementschef* である。この *departementschef* は、その機能から判断して、日本の事務次官に相当するのは明瞭である。⁵ そこで、政治や行政の知識が乏しい筆者には、*departement* は *ministerium* の中で *minister* <大臣> およびその周辺の政治的スタッフ（がデンマークにも存在するとしての話だが）を除いた部分、すなわち非政治的公務員全体を指すのかと考えたりもしたが、「直接に大臣のもとにある公務員スタッフを指す」（ペタション 1998: 125）という説明を見ると、*departement* は〔*ministerium* から大臣（およびその周辺の政治的スタッフ）を除いた部分〕というほど大きな規模でもなさそうである。ちなみに、*departementschef* を <事務次官> と訳すことに筆者は長年の間、躊躇してきた。なぜかと言うと、現在でこそデンマークの各 *ministerium* <省> には *departement* は1つしかなく、したがって1人の *departementschef* しかいないが、過去には1つの省に複数の *departement* があり、複数の *departementschef* がいたからである。⁶ 日本の省には事務次官は1名しかいない。そもそも1つの省に複数の事務次官がいることはありえないのではないかと、門外漢の筆者には思えたからである。しかし、水谷利亮先生によると、長官、すなわち省のトップとしての大臣が複数いることはありえないが、次官であれば複数いても支障はないということである。したがって、安心して *departementschef* には <事務次官> という訳語を当てることができるであろう。

以上のことから、上記2つの日本語文献がデンマークの *departement* の日本語訳として <省> を当てていることは不適切であると言わざるを得ない。これら2つの文献以外でデンマーク語の *departement* の日本語訳を示しているものは他にないようであるから、⁷ 本稿でその日本語訳を検討することは十分価値のあることと言えよう。

3. 各種辞典、および英・独・仏語版ホームページから得られる日本語訳

departement の日本語訳を求める場合、まずデンマーク語 - 英語、デンマーク語 - ドイツ語、デンマーク語 - フランス語の辞典などを見て、さらに英和、独和、仏和の辞典を見るであろうが、そこで *departement* の適切な日本語訳が求められないものなのであろうか。以下に各辞典の説明を見してみる（辞典の略号については本稿末の参考文献リストを参照）。

デ - 英: 【DER】 *department*, 【DES】 *department*

デ - 独: 【DTR】 (*omtr*) *Amt* (statistisches Amt), 【DTS】 (*afdeling*) *Amt*, *Abteilung*;
(*BRD på forbundsplan*) *Bundesamt*

デ - 仏: 【DFR】 *département*; (*del af ministerium*) *division*

デ－英辞典の *department* という英訳だけでは、*departement* が何を指すのかまったく分からないが、英語の *department* の中央行政機構に関する意味に限定すると、米国や英国の〈省〉という意味に到達する。しかしこれは、§ 2 で言及したように、デンマークの *departement* は *ministerium* の中にある組織であろうということから、適切な日本語訳とは言えない。

一方、デンマーク各省の英語版ホームページでは、デンマーク語の *departement* は、①まったく英訳されていない（例．労働省：<http://www.am.dk/english/ministry/organisation/default.asp>）、②デンマーク語の *departement* がそのまま用いられている（例．教育省：<http://www.uvm.dk/eng/ministry/structure/hovedstruktur.htm>）、③英語の *department* が用いられている（例．教育省：<http://www.uvm.dk/eng/ministry/structure/departementet.htm>、食糧農水省：http://www.fvm.dk/fvm_uk/high_final_uk_full.asp?page_id=227、社会省：<http://www.sm.dk/eng/ministeriet/struktur/indhold.html>）場合がある。①、②の場合は、デンマーク語の *departement* は英訳が不可能だと考えられていると思われる。他方、③の場合には、英語の *department* は上記のごとく、米国や英国の〈省〉を意味するものであり、*ministerium* の中にあるデンマーク語の *departement* を指す英語訳としては適切ではないと言えよう。

デ－独辞典からはドイツ語の *Amt*, *Abteilung*, *Bundesamt* の3種類の訳語に到達する。これらは独和辞典では以下のようなものである。

Amt【独和大】官公庁、役所；部局：*das Auswärtige* ～ 外務省 | *das* ～ *für Statistik* 統計局，【独和マ】（官公庁の）省，部局，部署；執務室：～ *für Statistik* 統計局

Abteilung【独和大】（大きな組織・官庁・企業などの）部門，部局（局・部・課など），【独和マ】（役所・会社などの）部，課

Bundesamt【独和大】（特に西ドイツの）連邦上級官庁，庁：～ *für Finanzen* 連邦財務庁 | *Statistisches* ～ 連邦統計庁，【独和マ】なし

デンマークの *ministerium* の中の *departement* がドイツ語の *Bundesamt* 〈庁〉に対応するとするには、ベタシヨンの「直接に大臣のもとにある公務員スタッフを指す」（ベタシヨン 1998: 125）という説明から無理がある。「部局（局・部・課）」を表す場合の *Amt* や *Abteilung* にも *departement* は対応しないであろう。なぜならば、「部局（局・部・課）」の長が *departementschef* 〈事務次官〉というのは適切ではないからである。最後に残るドイツ語の *Amt* が「省」を表す場合には、*departement* がこれに対応しているのであるが、*ministerium* と同じ〈省〉という訳語は、これまで見てきたように、不都合である。

一方、デンマーク各省のドイツ語版ホームページ（<http://www.skat.dk/deutsch/steuerministerium.htm>）でデンマーク語の *departement* の独語訳を目にすることは稀

であるが、財務省のホームページでは Departementet が Das Staatliches Steueramt となっている。これから <財務> に相当する Steuer- を除いて考えると, departement の独語訳は ein staatliches Amt ということになるが, 上記の Amt の説明から, これは適切な独語訳と言えるかどうか疑問の余地があると言えよう。

デンマーク語の departement は, 綴りと発音から見て, 明らかにフランス語からの借用語であるが, デ - 仏辞典では【DFR】département; (*del af ministerium*) division となっており, このフランス語の département はフランスなどの <県> のことを指していて, 省内組織としての departement に対応するフランス語は division であると, 【DFR】は言っていると解釈できる。このことは, departementschef の仏語訳として【DFR】が chef de division を示していることから明らかである。そしてこの division は【仏和中】によると <局> を意味し, chef de division は <局長> を意味しており, デンマーク語の departement の訳語としては誤りであることが分かる。⁸

ところで, デ - 仏辞典の【DFR】は, 省内組織としての departement に対応する仏語訳としてフランス語の département を当てていないようであるが, この語がデンマーク語の departement の源であることを考えると, 【DFR】の説明は何か釈然としない。そこで, フランス語の département の意味を以下に見てみる。

département 【仏和中】1. [フランスなどの] 県; 《pl. で》[パリに対して] 地方;
2. [行政組織の] 省 (= ~ ministériel. ministère) ~ de la Santé publique 厚生省/
~ d'État [米国の] 国務省; 3. 部門, 課, 部; 4. 管轄, 権限; 5. 《古》分割,
[駐屯部隊などに割り当てられる] 営舎

département の意味として【仏和中】が示す5つのもののうち, 3 と 5 の意味は, 現代デンマーク語の departement にはないことが, 下に示すように現代デンマーク語辞典【NDO】, 【SNND0】, 【NDE】の説明から分かる。

【NDO】1. (i Frankrig) provins, amt <(フランスで) 田舎, 地方, 県>; 2. afdeling af et ministerium <省の一部分>; 3. (overf.) område <(比喩的に) 管轄領域>

【SNND0】, 【NDE】1. (i Danmark): sekretariat i et ministerium <(デンマークで) 省内の事務局/官房>; 2. (Frankrig): et administrativt område som nogenlunde svarer til et amt i Danmark <(フランスで) デンマークのアムトにほぼ相当する行政区, すなわち県>; 3. (spørg.): et område som varetages af en person <(冗談で) ある人が管轄する領域>

一方, 【仏和中】の 1 と 4 はそれぞれ, 【NDO】の 1 と 3, 【SNND0】, 【NDE】の 2 と 3 に一致する。残った【仏和中】の 2 <省> が【NDO】の 2 および【SNND0】, 【NDE】の 1 と関連があるように思えるが, 省全体とその中の一部分あるいは事務局/秘書課とでは規模が違いすぎる。

ちなみに、【仏和中】の2の意味は【フ語大】や【仏和大】などの他の仏和辞典、あるいは仏仏辞典の【DAALF】にも載っており、あらゆるフランス語辞典に載っているようであるが、フランス国内で現在 *département* が省内の *direction* <局> の下位組織である「課」などの意味で用いられることはあっても (cf. フランスの *Ministère de la Recherche* <科学省> のホームページ <http://www.recherche.gouv.fr/site/organig/techno.htm>)、「省」の意味で用いられることはないようである。⁹ したがって、フランス語の *département* も省の中の組織を表すデンマーク語の *departement* の仏語訳としては不適切であることが分かる。

一方、デンマーク各省のフランス語版ホームページでデンマーク語の *departement* の仏語訳を目にすることは稀であるが、財務省のホームページ (<http://www.skat.dk/francais/leministere.htm>) では、*Departementet* は “Le ministère des Impôt danois est constitué du service des Impôt, responsable de la législation et de la politique fiscale, ...” (1/3 ページ) の「財務関連の立法・政策に責任を負う」*le service des Impôt* となっていたり、同ホームページの2/3ページの本文ならびに機構図では *Direction des Impôt et taxes* となっている。これら *service* も *direction* も行政関連では <局,部> を表すことばであり、その長が *departementschef* <事務次官> に相当するというのは不都合であり、*service* も *direction* もデンマーク語の *departement* の仏語訳としては不適切であると言えよう。

ここで、その出版が1921年と、デンマークの現代事情を語るには少々古すぎる感もなくはないが、現時点でデンマーク語 - デンマーク語辞典としては最大である【ODS】を見てみると、*departement* の中央行政に関する意味の説明は以下のようである。

【ODS】2) *afdeling af den udøvende myndighed*. <行政の一部分>

2.1) *ministerium: nu kun om udenl. forhold ell. (foræld.) om departementet for udenlandske affærer, 1770-1848 benævnelse paa den del af regeringen, der varetog udenrigspolitikken*. <省：今日では、外国の状況に関してのみ用いられる。あるいは、《古》かつての外務省、すなわち1770-1848年に政府の中で外交政策を扱った部分について用いられた。>

2.2) *hovedafdeling af et ministerium* <省の主要部門>

上記【ODS】の説明のうち、2.2) が本稿で扱う *departement* に相当するであろうか。この【ODS】の説明と上記【NDO】、【SNNO】、【NDE】の説明、ならびに「直接に大臣のもとにある公務員スタッフを指す」(ベタション 1998: 125) という説明を考慮すると、「*departement* イコール *ministerium*」ではない、ことは明白である。他方、長が *departementschef* <事務次官> であるというのであるから、*departement* が大臣官房のようなものであったり、省内の1つの局であったりする

のではなく、もっと規模の大きなものであろうが、どの程度の規模のものなのか、辞典類だけでは分からない。したがって、以下にデンマークで出版されているハンドブック類、百科事典類、およびデンマーク省庁のホームページを参考にし、考察を進める。

4. 百科事典、ハンドブック、ホームページからの情報

まず、百科事典で *departement* の中央行政に関わる部分の説明を簡単に見てみる(原文は注に挙げる)。

departement: *departementschef* <事務次官> を長とする、中央行政の領域。省は 1 つあるいは複数の *departement* から成る。行政のいくつかの部分は *direktorat* の管轄下にある。¹⁰ (*Gads Lille Leksikon*. 1993: 223-224)

departement: デンマークでは、中央行政の 1 部門のこと。外務省を除く各省は、*departementschef* <事務次官> を長とする 1 つあるいは複数の *departement* から成る。¹¹ (*Gyldendals Tibinds Leksikon*. bd. 2. 1983: 413)

上の百科事典の説明では *departement* の規模や概要がよく分からない。そこで、次にデンマーク社会に関するハンドブックである *Samfundslex* と *Samfundsnøglen 1994/1995* を見てみる。

departement: 省内の最高行政組織。*departement* は、1 つの省に複数あり得るが、上位に位置する問題・課題や全体の調整を図るような問題・課題、例えば、法案や予算案の準備、大臣への助言・説明を扱う。その職員は典型的には法律や経済の専門家など、いわゆるジェネラリストである。*departement* のトップは *departementschef* <事務次官> であり、*departement* は上から下への明瞭な命令構造を有した階統制構造で構築されている。このことは、省全体の責任者としてすべての決定を行なうのは、形式上は大臣であることと関連がある。¹² (*Samfundslex*. 1997: 63)

省は 1 つの *departement* から成る。*departement* は、大臣の下にあって最高位の官僚である *departementschef* <事務次官> が管理する。*departement* は、*kontorchef* <課長? ¹³> を長とする *kontor* <課? ¹³> に分かれている。[...] 大きい省では *kontor* <課? ¹³> が *afdelinger* <諸局? ¹³> に集められている。¹⁴ (*Samfundsnøglen 1994/1995*. 1994: 11)

上の *Samfundsllex* の説明から、*departement* は、日本の省内の大臣官房に相当するような印象を受けるが、*Samfundsnøglen* の説明を見ると、一概にそうでもなさそうである。*departement* の機能と位置付けを分かりやすくするために、さらに *Samfundsllex* の *centraladministration* <中央行政> の項目を見てみる。

中央行政：国家行政の呼称。デンマークでは中央行政は様々な省から構成されており、それぞれの省は、1つあるいは複数の *departement* と *styrelse/direktorat* <庁？¹³> に分かれており（[次ページの] 図 [1] を見よ）、形式上は、政治機構で決定される法律や規則を執行する権限のみを有する。

大臣支配と政党政治に関する中立性は中央行政における主要原則である。大臣支配の意味するところは、行政の遂行の責任は大臣にあるということであり、政党政治に関する中立性の意味するところは、行政は政党色に関係なく政権を担当する政府に奉仕することである（この点は、例えば、大統領の交代に伴い中央行政の大部分が入れ替わるアメリカ合衆国とは異なる）。しかしながら、政党政治に関する中立性は政治的中立性とは同一ではなく、現実には中央行政の役人たちは立法の過程においてかなり大きい影響力を有している。

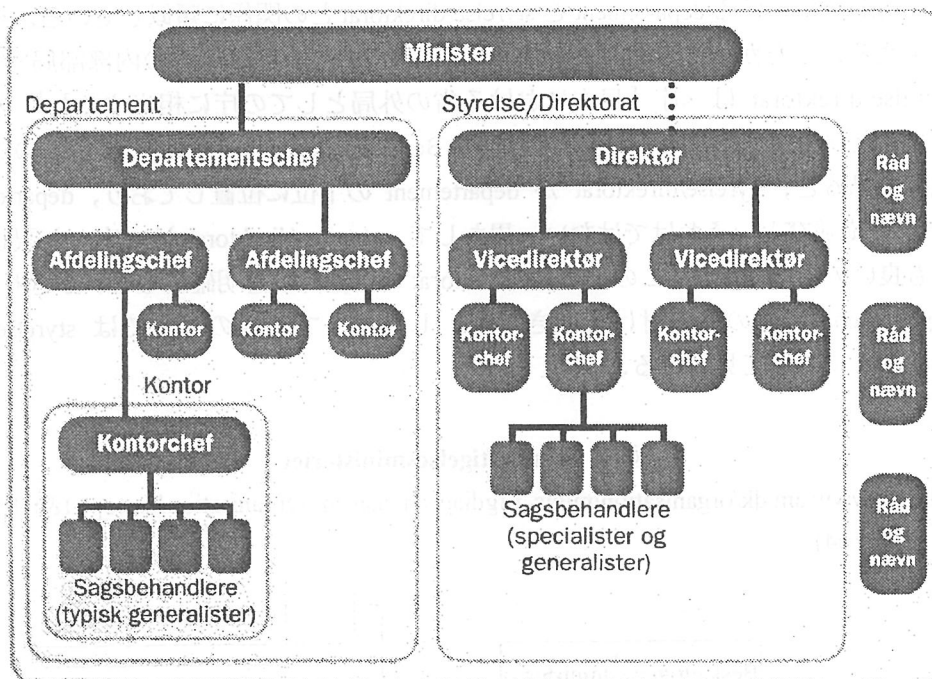
立法の準備および法律の施行は政治的過程であり、特に、枠組み法に関する場合にはそうである。通達や回状の発行はこのように常に判断と解釈の1要素を含んでいる。その上、官僚は、ほとんどの大臣が太刀打ちできないほどの専門的知識を有している。このため、各省は独自の政策を発達させることになり、その政策は大臣が新しく代わっても本質的な変更をみることはない。逆に、タミール事件で起こったように、官僚たちは一人の大臣の政策を貫くために行き過ぎることもある。¹⁵

(*Samfundsllex*. 1997: 48-49)

次ページの図1は日本の省の機構図を思い起こさせる。日本の場合、「総理府と省は、それぞれ内局と外局から構成されている。[中略] 省の外局である庁の長官は、国務大臣でも政治的任命職でもなく、生涯職の官僚である。しかし、内局からある程度の独立性を与えられている。」（『朝日現代用語 知恵蔵 1991』p.391）。もっとも、ここで言う「総理府」は、2001年1月の省庁再編後の現在では「内閣府」と呼ばれる（『情報・知識 imidas 2002』pp.318-319）。また、ここで言う「内局」という表現も「内部部局」という呼び方がふつうのようである。¹⁶ また、「日本の統治機構図」（『朝日現代用語 知恵蔵 2002』pp.350-351）や次ページの

図1 (Samfundslæx, 1997: 48)

Ministerium



上の図1の中で用いられているデンマーク語の説明：ministerium: 省 minister: 大臣
 departement: ? departementschef: 事務次官 styrelse/direktorat: 庁¹³ direktør: 長官¹³
 råd: 審議会 nævn: 委員会 afdelingschef: 局長¹³ kontor: 課¹³ kontorchef: 課長¹³
 vicedirektør: 次長¹³ sagsbehandler: 担当官 typisk generalist: 典型的にジェネラリスト
 specialist: スペシャリスト

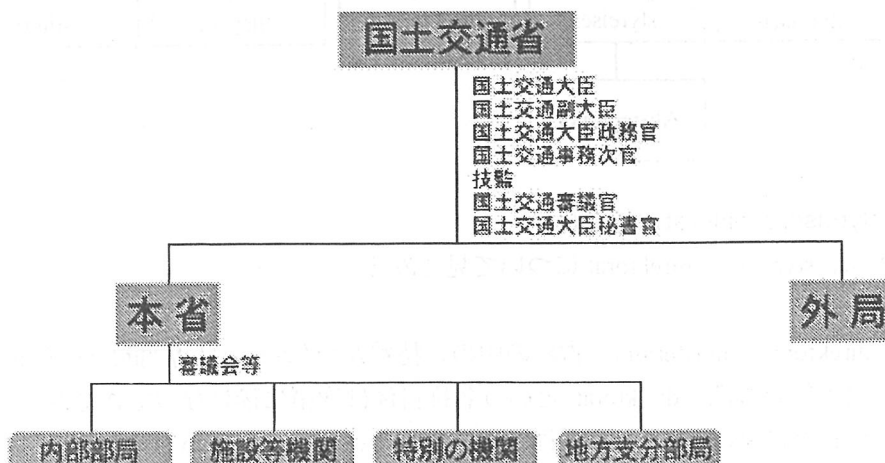
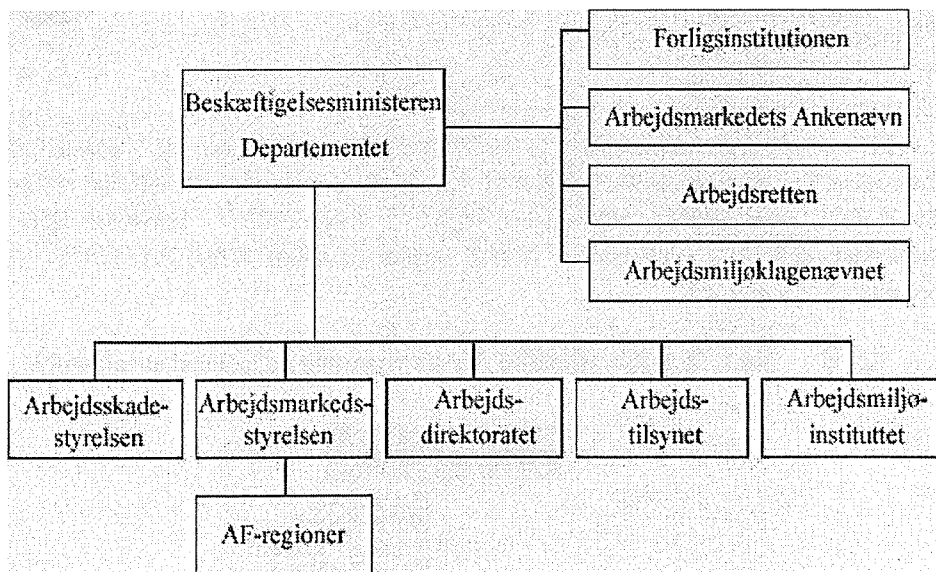
図2 国土交通省の組織図 (<http://www.mlit.go.jp/annai/annai.html>)

図2「国土交通省の組織図」では、省の中で「内部部局」(/本省)と「外局」が横並びで、共に大臣の下に位置しているが、この関係は前ページの図1の ministerium における departement と styrelse/direktorat との関係に類似しているように思える。したがって、departement は <本省> あるいは <本省の内部部局>¹⁷, styrelse/direktorat は <庁 [日本における省の外局としての庁に相当する]>¹⁸ と訳すことができそうであるが、下の図3の Beskæftigelsesministeriet <労働省> の組織図を見ると、styrelse/direktorat が departement の下位に位置しており、departement と横並びというわけではない。果たして、styrelse/direktorat は <庁> と訳しても良いのであろうか。この styrelse/direktorat の位置付けを明確にしないかぎり、departement 自体の位置付けもできない。したがって、次の § 5 では styrelse/direktorat について見てみる。

図3 Beskæftigelsesministeriet

(http://www.am.dk/organisation/minis_orgdiagram.asp?id=Organisation&mtop=1&mlft=3&thgt=4)



5. styrelse/direktoratの位置付け

まず、styrelse と direktorat について見てみる。

direktorat: ministerium <省> の中の、特殊かつ/あるいは専門的な任務を負う行政機関。direktorat という名称自体は次第に稀になってきており、代わりに styrelse という名称が用いられる。¹⁹ (Samfundslex. 1997: 67)

Direktorater og Styrelser: 省は多数の特殊で専門色の濃い任務を、同一タイプの特別な機関である direktorat や styrelse に課してきた。direktorat や styrelse は departement の下に置かれているが、その特殊な性格ゆえに、しばしば省の(局)課(?¹³)よりも独立性の強いポジションを占める。direktorat や styrelse には2つのタイプがある。いくつかのものは departement の下に置かれる一方、ほかのものは departementschef<事務次官> と同等に大臣に直接報告を行なう。²⁰ (*Samfundsnøglen 1994/1995*. 1994: 11)

以上のように、styrelse と direktorat が同一タイプの機関であり、また名称 styrelse から名称 direktorat に取って代わりつつあることから、英国の ministry, department, office を日本語で<省>と訳すのと同様に、これらにも同一の日本語訳を当てても良いことが分かる。styrelse についてさらに詳しく見ると：

styrelse: ministerium <省> の中の、特殊かつ/あるいは専門的な任務を負う行政機関。styrelse (あるいは direktorat) は departement 同様、階統制構造になっており、direktør により統率される。形式上は、styrelse/direktorat は departement の下に置かれているが、実際には、departement と同等のポジションにあることもある。styrelse/direktorat は省の専門的に比較的特殊性のある行政機関であるとしてすることができ、職員は典型的には、例えば Miljøstyrelsen <環境～> における生物学者や Sundhedsstyrelsen <医療・保健～> の医師などのように、多数のスペシャリストがいる。styrelse/direktorat はいくつかのタイプに分けられる：

専門性のあるタイプは、ある特定の分野において国家コントロールを行なう。このタイプには Sundhedsstyrelsen <医療・保健～> などがある。

一般性のあるタイプは、省の有する専門分野のある特定の部分を日常的に管理する責任を負う。このタイプには Told- og Skattestyrelsen <関税・税務～> などがある。

混合タイプとは、すなわち専門性と一般性の両方を有するタイプである。このタイプには例えば Arbejdsmarkedsstyrelsen <労働市場～> や Direktoratet for Arbejdsløshedsforsikring <失業保険～> などの Arbejdsministeriet²¹ <労働省> 下にある styrelse/direktorat などがある。²²

(*Samfundslex*. 1997: 346-347)

上の説明のうち、「direktorat や styrelse には2つのタイプがある。いくつかのものは departement の下に置かれる一方、ほかのものは departementschef<事務次官> と

同等に大臣に直接報告を行なう。」(Samfundsnøglen 1994/1995. 1994: 11) や「形式上は, styrelse/direktorat は departement の下に置かれているが, 実際には, departement と同等のポジションにあることもある。」(Samfundslæx. 1997: 346-347) の箇所, および「省の外局である庁の長官は、国務大臣でも政治的任命職でもなく、生涯職の官僚である。しかし、内局からある程度の独立性を与えられている。」(『朝日現代用語 知恵蔵 1991』p.391) という説明から、デンマークの styrelse/direktorat と日本の省の外局としての庁には類似性が見られる。

また, Ministeriet for Fødevarer, Landbrug og Fiskeri <食糧農水省> のデンマーク語版と英語版の機構図を見ると, 組織の任務の内容を表すキーワードが機構図の左側についている(下の図4参照)が, ministeren の左には Politik (Policy) <政策> ,

図4 デンマークの食糧農水省の機構図

http://www.fvm.dk/ministeriet_organisation.asp?page_id=63 を基に作成

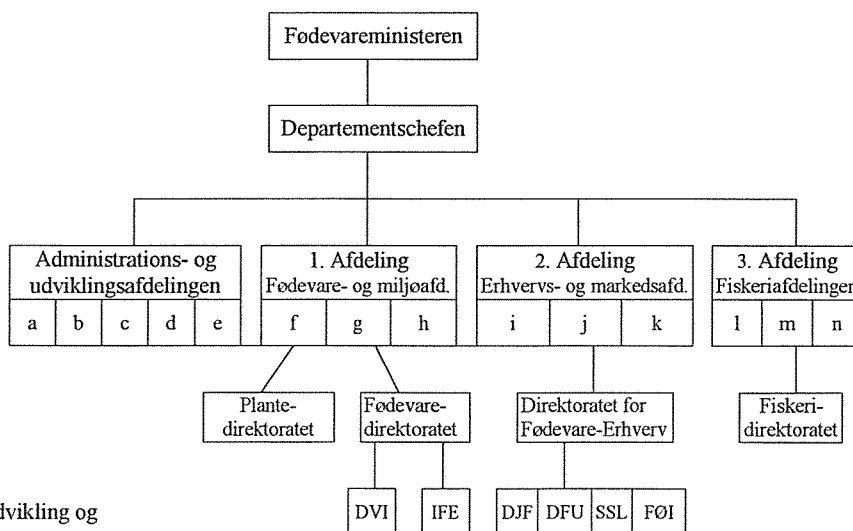
Ministeriet for Fødevarer, Landbrug og Fiskeri
Departementet

Politik

Ledelse

Myndighed

Forskning, udvikling og
laboratorievirksomhed



a: Økonomikontor
b: Planlægnings- og udviklingskontor
c: Personalekontor
d: Informatikkontor
e: Juridisk kontor
f: Miljø- og plantekontor
g: Veterinær- og fødevarekontor

h: Informationsenhed
i: EU-kontor
j: Jordbrugsøkonomisk kontor
k: Internationalt kontor
l: Udviklingskontor
m: Nationalt kontor
n: Internationalt kontor

DVI: Danmarks Veterinær Institut
IFE: Institut for Fødevaresikkerhed og Ernæring
DJF: Danmarks Jordbrugs Forskning

DFU: Danmarks Fiskeriundersøgelser
SSL: Statens Skadedyrlaboratorium
FØI: Fødevareøkonomisk Institut

Departementschefen を長とする各種 afdelinger (〈局〉であろうか) の左には Ledelse (Management) 〈管理〉, 4 つの direktorat [この省には styrelse はないようである] の左には Myndighed (Authority) 〈当局〉というキーワードがある。また, デンマークの各省ホームページによると, styrelse/direktorat は英語では Agency, Authority, Board, Directorate の4種類の名称で呼ばれている。これらのことから, styrelse/direktorat は, departement の下に位置付けられることはあるものの, 75 ページの図1を考慮すれば, 〈庁[日本における省の外局としての庁に相当する]〉と訳して良いということが明白であろう。²³

6. 大臣官房か否か

Departementet er ministerens sekretariat. 〈departement は大臣の sekretariat である.〉という表現がデンマークのほとんどの省のホームページで見られる (例: Forsvarsministeriet 〈国防省〉: http://www.fmn.dk/inhold.asp?cat_id=251. Trafikministeriet 〈交通省〉: <http://www.trm.dk/mindep/indhold.html>). この ministerens sekretariat という表現は, 日本の大臣官房の英文名称である Minister's Secretariat を思い起こさせる (cf. 「財務省局部課等英文名称一覧」 <http://www.mof.go.jp/mof/meisho.htm>). 他方, 機構図では ministersekretariat が departementschef 〈事務次官〉の下 (例: Undervisningsministeriet 〈教育省〉: <http://www.uvm.dk/minist/struktur/dep.html>), あるいは departementschef の上 (例: Forsvarsministeriet 〈国防省〉: http://www.fmn.dk/index.asp?cat_id=253) に示されている。そしてさらに departementschef の下に ledelsessekretariat (cf. ledelse 〈管理〉) が示されているものもある。場合によっては, これら2種類の sekretariat が合併して, minister- og ledelsessekretariat が置かれている場合もある (例: Beskæftigelsesministeriet 〈労働省〉: http://www.am.dk/organisation/depart_orgdiagram.asp). この ministersekretariat は, 例えば交通省のホームページでは, 「大臣の個人的な sekretariat であり, 一般的な sekretær としての職務を果たし, 会議等の計画・調整を行なって大臣を補佐する。ministersekretariat は政府, 国会, 報道機関との日常的な連絡を行なう。」²⁴ となっていることから判断すると, 〈大臣秘書室〉であろう。ちなみに, Justitsministeriet 〈法務省〉の ministersekretariat の場合は, 大臣付き運転手の名前まで挙がっているところを見ると, スタッフ全員をリストアップしているものと考えられるが, 全員で5名という小所帯である (<http://www.jm.dk/wimpdoc.asp?page=document&objno=50012>). また, departement 自体は, 例えば, 交通省の場合は165名, 国防省では170名の定員があるが, これがもしも日本の大臣官房に相当するとすると, デンマークという小国にしては, その規模があまりにも大きすぎる。というのは, 日本の, 例えば環境省の大臣官房の定員は99名となっており (<http://www.env.go.jp/guide/>

gyomu/index.html), 環境省が日本の省庁の中では規模が小さいものであるとはいえ, 日本の環境省の大臣官房よりもデンマークの交通省の“大臣官房”の方が規模が大きいということはあるまいであろう。

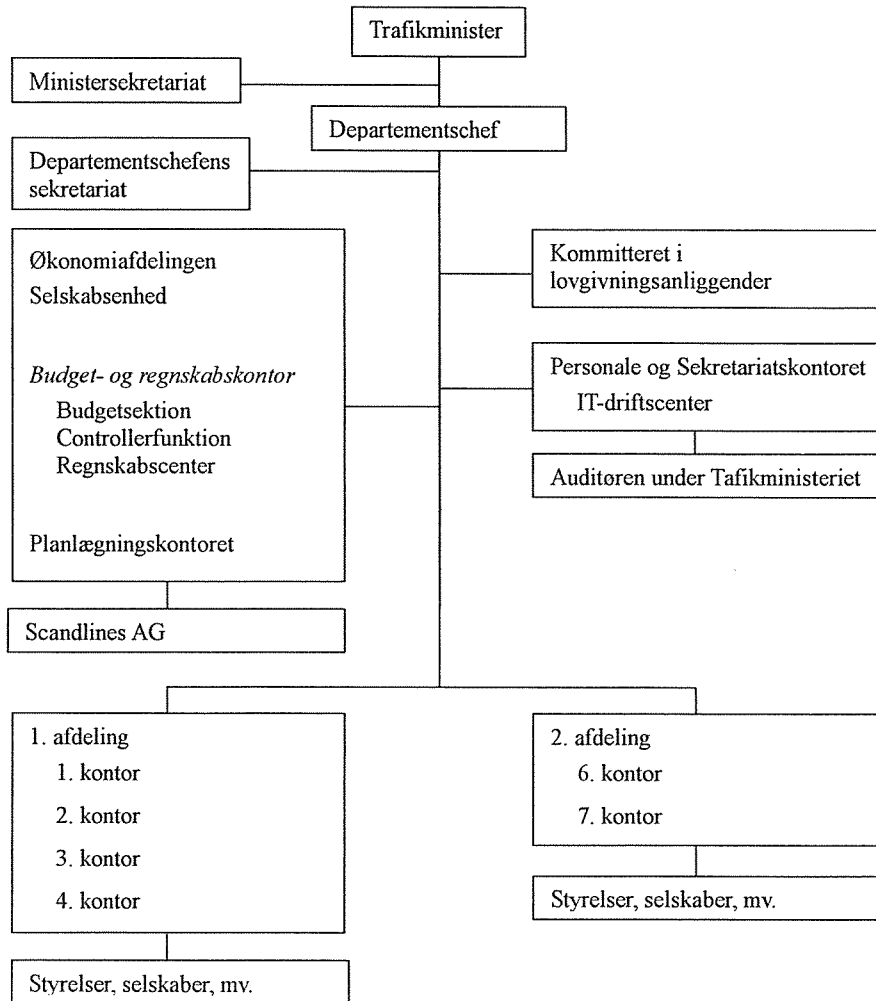
では, departement は日本では何に相当するのであろうか。また, デンマークには大臣官房に相当するものはないのであろうか。ホームページでデンマークの各省の機構図を見てみると, その内部構造は均一というには程遠いことが分かる。いろいろな内部組織の名称にも統一性が乏しいという印象を受ける。しかしながら, 典型的な構造というのも求めることができるであろう。これら幾多の省の中で, 食糧農水省の構造が一番シンプルで分かりやすいものであると筆者には思われる。78 ページの図 4 に見るとおり, 食糧農水省では ministerium の中に departement が 1 つある。さらにその departement の中に 4 つの afdeling がある。このうちの 1. Afdeling <第 1 局: 食糧・環境局>, 2. Afdeling <第 2 局: 産業・市場局>, 3. Afdeling <第 3 局: 漁業局> の 3 つの afdeling は, 日本の本省内部部局の諸局に相当するものと思われる。またその下の kontor は日本でいう局の下の <課> に相当するであろう。²⁵ afdeling には上記の 3 局とは別に Administrations- og udviklingsafdelingen <総務・開発局> があり, これはその名称から, 上記 3 局とは異なったポジションにあることが窺える。その内部には, Økonomikontor <経済課>, Planlægnings- og udviklingskontor <企画・開発課>, Personalekontor <人事課>, Informatikkontor <情報管理課>, Juridisk kontor <法規課> の 5 課がある。この Administrations- og udviklingsafdelingen <総務・開発局> は, 日本において財務・人事・文書等の総括管理機能を担当する「官房 3 課」がまとめられている大臣官房 (西尾 2001: 177) に相当すると思われる。²⁶

また, 次ページの図 5 の交通省の機構図に見るとおり, 交通省では, 筆頭局は Økonomiafdelingen <経済局> と呼ばれ, 予算等を所掌事務としている。そのほか, 第 1 局, 第 2 局の上位に位置するものとして, Kommitteret i lovgivningsanliggender <法案関連担当審議官 (commissioner)> と Personale- og Sekretariatskontoret <人事・秘書課> があり, これら 3 組織が日本の大臣官房の役割を果たしているものと考えられよう。

以上のことから, デンマークの ministersekretariat は日本の大臣官房に相当するものではなくて, 大臣秘書室に相当するであろうということが分かった。また, departement も日本の大臣官房に相当するのではなく, 大臣官房の機能を有するいくつかの組織を含んだ諸局からなっていることが分かる。一方, styrelse/direktorat は <庁 [日本における省の外局としての庁に相当する]> であることが分かった。ゆえに, departement は本省の (大臣官房を筆頭とする諸局からなる) 内部部局に相当するものと考えられる。

図5 Trafikministeriet

<http://www.trm.dk/mindep/departement.html> を基に作成



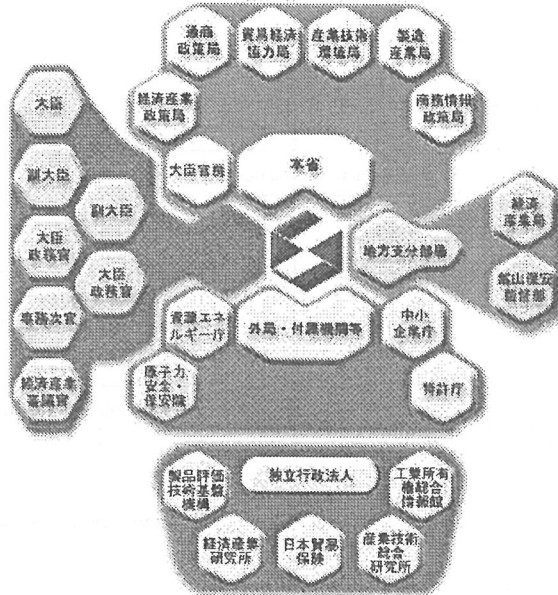
7. 本省か、あるいは本省の内部部局か

上で見たように、departement は本省の（大臣官房を筆頭とする諸局からなる）内部部局に相当するものと考えられるが、それでは、departement は本省そのものに相当するものとは言えないのであろうか。別の言い方をすれば、内部部局だけの部分を日本では本省と呼ぶのであろうか。

日本の省庁のホームページで省の機構図を見ていると、多くの場合は、内部部局だけの部分を本省と呼んでいるように思える（次ページの図6「経済産業省の

図6 経済産業省の機構図

<http://www.meti.go.jp/intro/aboutmeti/index.html>



機構図」参照) が、このことは文章による説明の箇所では明白に述べられてはいないように思える。しかしながら、財務省のホームページでは、本省には「内部部局」、「施設等機関」、「特別の機関」、「地方支分部局」が含まれることが、機構図においても(次ページの図7「財務省全体の機構図」参照)、文書においても(「財務省局部課等英文名称一覧」, <http://www.mof.go.jp/mof/meisho.htm>), 明白にされている。このように、日本では省によって「本省」の含む範囲が異なっているのかも知れない。

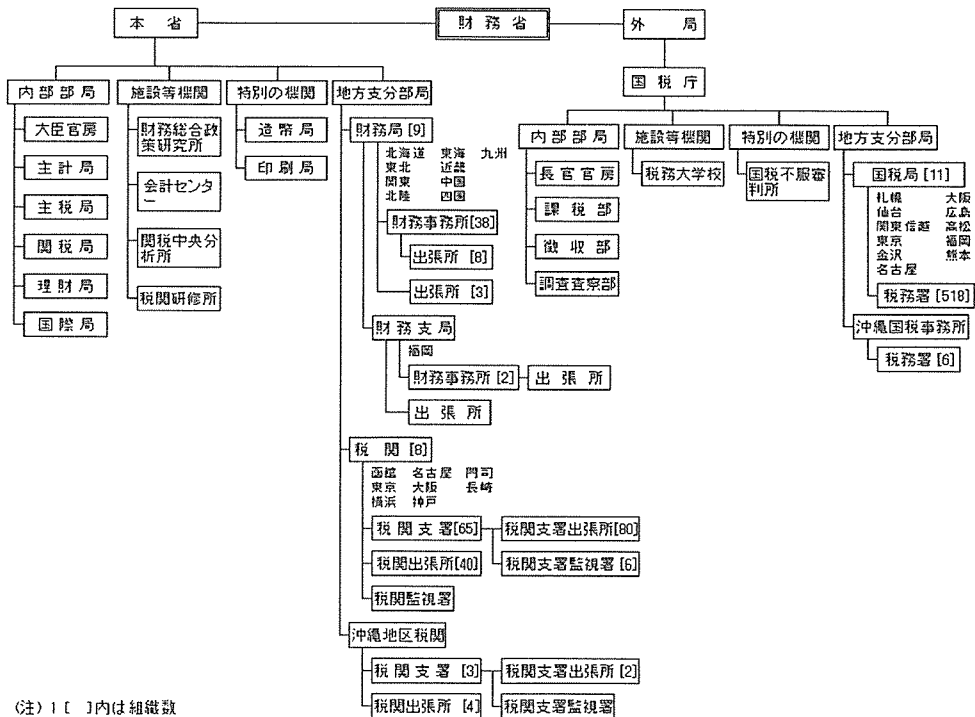
一方、デンマークの departement には「施設等機関」などは含まれておらず,²⁷ 「内部部局」に相当するものしか含まれていない。したがって、デンマークの departement は <(中央行政組織としての) 本省の内部部局 [日本の大臣官房を筆頭に諸局を含む内部部局に相当]> という日本語訳(説明)を当てるのが無難であると言える。

8. departement がゼロ、あるいは複数の場合

上の § 7 で、デンマークの departement は <本省の内部部局> という日本語訳を当てることができるであろうとしたが、現在、Udenrigsministeriet <外務省> には departement がなく、したがって省の最高の官僚は、departementschef ではなくて、

direktør と呼ばれる (<http://www.um.dk/udenrigstjenesten/dksep.PDF>). しかしながら、この direktør の英訳は Permanent Secretary <事務次官> となっている（外務省の英語ホームページ：<http://www.um.dk/udenrigstjenesten/uksep.01.PDF>）ことから分かるように、direktør は外務省における場合だけ <事務次官> という日本語訳になる。ちなみに、direktør は styrelse <庁> の長官と同じ名称である。外務省は、ヨーロッパ、北アメリカ、日本、オセアニアなどを担当する Nordgruppen <北班> とアフリカ、中東、南アメリカ、南アジアなどを担当する Sydgruppen <南班> に大きく分かれ、これら両班共同の事務局として、Fællessekretariat <合同事務局> が置かれ、大臣官房のような機能を果たしているようである。同省にはさらに、Danmarks Eksportråd <デンマーク輸出会議> が置かれており、これら4つの組織が、他省の afdeling <局> に相当すると考えられる。したがって、外務省にも、当然のことながら、本省の内部部局は存在するが、これを departement という1つの組織としては扱っていないことになる。

図7 財務省の機構



ところで、§ 2 で見たように、かつては省内に複数の departement をもつ省があった。また、§ 4 で見たように、百科事典やハンドブックから分かるように、省には複数の departement がある場合もあり得る。その場合には、departement に〈本省の内部部局〔日本の大臣官房を筆頭に諸局を含む内部部局に相当〕〉という日本語訳（説明）を当てることはできず、カタカナ表記で〈ディパデマング〉とした上で、〔本省内部部局の中の、諸局から成る、担当行政分野別の部門〕という説明を加えなくてはならないであろう。²⁸

9. おわりに

本稿では、中央行政組織関連用語としての departement の日本語訳を求めてきた。その過程で、ministersekretariat と styresle/direktorat の位置付けを確認し、これらにそれぞれ〈大臣秘書室〉と〈庁〔日本における省の外局としての庁に相当する〕〉という日本語訳を当てた。そして、departement を辞書項目として説明しようとする、以下のようにするのが適切であろう。

departement [ˌdepadəˈmɑŋ] [名] -et, -er : ([中央行政組織の] departements-chef〈事務次官〉を長とする) ディパデマング。

- (1) [ministerium〈省〉に departement が 1 つだけある場合] 本省の内部部局〔日本の大臣官房を筆頭に諸局を含む内部部局に相当〕；
- (2) [ministerium〈省〉に複数の departement がある場合] 本省内部部局の中の、諸局から成る、担当行政分野別の部門〔例えば、1980 年代の Finansministeriet〈財務省〉には、Budgetdepartement〈主計ディパデマング〉、Lønnings- og pensionsdepartement〈賃金・年金ディパデマング〉、Administrationsdepartement〈総務ディパデマング〉の 3 つのディパデマングがあった。〕

本稿では、また departement は、一般的には afdeling〈局〉から成り、その afdeling はさらに kontor〈課〉から成っていることも確認した。

本稿は、冒頭および注の各所で記したように、政治学や行政学の専門家である高知短期大学の水谷利亮先生および大阪大学大学院の齊藤弥生先生のご助言・ご意見なしでは、この分野の門外漢である筆者の手に到底負えるものではなかった。デンマークの政治や行政を専門とする研究者が日本にいたならば、本稿のように 20 ページ近くの枚数を割かずとも、簡潔かつ正確に departement の説明をし、日本語訳を提示することができたであろうに、と残念でならない。この分野でも日本人の専門家が一刻も早く輩出されることが望まれる。

(2002.5.31)

注

- (1) 大阪外国語大学名誉教授の間瀬英夫先生の「改良 Dania 式発音記号」による。
- (2) 水谷利亮先生のご助言がなければ本稿は日の目を見ることはなかったかも知れません。ここに水谷利亮先生に感謝の意を表します。また、デンマーク語の *departement* に関する考察の過程で、特にデンマークの *styrelse* とスウェーデンの *styrelse* に関して、大阪大学大学院の齊藤弥生先生に、はるばる研修先のスウェーデンから、幾多の情報ならびに貴重なご意見をいただきました。ここに感謝の意を表します。
- (3) 在日デンマーク大使館の文化担当の Kulturråd Bent Lindblad 氏にお伺いしたところ、“Departement er den centrale del af et ministerium.” <Departement は省の中心部分である.> (2002 年 2 月 12 日付 E メール)としながらも, *departement* = *ministerium* と考えたら良いのではないかという (2002 年 2 月 18 日の電話による) 説明をいただいたが、これは「*departement* でこれこれしかじかの政策が準備されている」などといった文脈で便宜的に *departement* を *ministerium* <省> に置き換えることができるということにしかすぎず、厳密な意味で、*departement* = *ministerium* と考えることは、やはり不可能である。
- (4) 大阪大学大学院の齊藤弥生先生によると、ベタション (1998: 125) のこの箇所の日本語の訳者も *departement* について在日デンマーク大使館に問い合わせていたそうであるので、*departement* <省> という日本訳は在日デンマーク大使館に由来しているのかも知れない (上記注 (3) 参照)。
- (5) *departementschef* はデ - 英辞書では、【DER】(*øverste embedsmand i ministerium; svarer til*) permanent secretary, 【DES】(*ministeriel, svarer til*) permanent (under)secretary となっており、「事務次官に相当する」とある。また、デ - 独辞書でも、【DTR】、【DTS】*Staatssekretär* となっており、これも「事務次官」のことである。ただし、デ - 仏辞書では、【DFR】*chef de division* <局長> となっており、このフランス語は適切な訳語とは言えないであろう。
- (6) 2002 年 5 月現在においてデンマークの各省について各 *ministeirum* のホームページで見るとは、各 *ministeirum* には 1 つの *departement* しかなく、このかぎりにおいては、日常的な文脈の中で *departement* のことを *ministerium* と便宜的に同一に扱い、両方を <省> と訳して、デンマーク語では *i departementet* となっているところでも <…省では> とすることは可能であろう。しかし、その場合の *departement* の訳語としての <省> はあくまでも便宜的な扱いであり、*departement* の正確な定義、あるいは正確な訳ではない (上記注 (3) 参照)。このことは、1 つの省の中には複数の *departement* があつた場合を考慮すればなお一層明白である。例えば、1983 年、1984 年頃には、Finansministeriet <財務省> に Budgetdepartementet, Lønnings- og pensionsdepartementet, Administrationsdepartementet という、それぞれ「主計」、「給与・年金」、「総務」を扱う 3 つの *departement* があつたし、Ministeriet for

skatter og afgifter <税務省> に *Departementet for told- og forbrugsafgifter* と *Skattedepartementet* という、それぞれ「関税・消費税」と「直接税」を扱う 2 つの *departement* があつた。また、*Udenrigsministeriet* <外務省> には *Departementet for udenrigsanliggender* と *Departementet for udenrigsøkonomi* という、それぞれ「外務」と「外国経済」を扱う 2 つの *departement* があつた (*Værsgo': Danmark 1984*: 76-88, *Værsgo': Danmark 1985*: 84-94)。ちなみに、2002 年 5 月現在では前述のごとくデンマークの各 *ministerium* には *departement* は 1 つしかないし、外務省には 1 つの *departement* もない (デンマーク各省のホームページによる)。

- (7) デンマーク史をご専門とされている早稲田大学の村井誠人先生も *departement* の日本語訳はこれまでにご覧になったことがないようで、訳語を持っておられない (2002 年 2 月 28 日付 E メール)。村井誠人先生がデンマークの歴史はもとより社会一般に関して日本語で書かれた文献でご覧になったことがないということは、デンマーク語の *departement* の訳語は前述の 2 点の文献中の <省> 以外のものはないと考えてよいであろう。
- (8) フランスの省庁のホームページを見るかぎりでは、本省内部部局の局にあたる語としては *direction* が用いられている。この *direction* は【仏和大】や【仏和中】でも <部局, 局> を表すことが確認できる。一方、*division* は【仏和大】や【仏和中】では <[行政] 局, 部局> を表すとなっているが、【ロ仏和大】では *chef de division* が <[行政] (県庁の) 部長> となっているし、フランスの省庁のホームページでは、本省内部部局の局にあたる語としての *division* は見当たらない。大阪外国語大学フランス語専攻の和彗則明先生 (フランス経済論) は、*chef de division* という表現は聞かれたことがないそうで、藤平シルビィ先生 (フランス史) のご協力を得て調査していただいた結果、現実には行政機構や役職について軍事関係以外では *division* が用いられている例がまったくなく、藤平先生の御意見では口語的に全体の一部として用いられているのではないかということである。ここに和彗則明先生と藤平シルビィ先生に感謝の意を表します。以上のことから、【DFR】が示すデンマーク語の *departement* の仏語訳としての (*del af ministerium*) *division* は不適切であることが分かる。
- (9) フランス語の *département* が、現在、フランス国内では一般的には <省> の意味で用いられることはなく、辞書によれば、官庁用語として内部的に使われているとなっている旨を、大阪外国語大学フランス語専攻の和彗則明先生 (フランス経済論) と藤平シルビィ先生 (フランス史) にご教示いただきました。ここに両先生に感謝の意を表します。和彗則明先生は、また、「フランス語の一番大きい辞書の感じでは、昔は使われていた感じもあります。というのは用例として出されているものがどれも 18 世紀の作家の文章ですので、その頃デンマーク語に影響したのかもしれませんが。」というご指摘も頂いております。その後、筆者自身がフランスの省庁のホームページを見たかぎりでも、*département* が <省> の意味で使われているケースは見つ

からなかった。余談ながら、フランスの省庁のホームページを調べている過程で、偶然にベルギーの Ministère des Affaires économiques <経済省> のホームページに行き当たったが、組織図（フランス語で Organisation du département, オランダ語で Organisatie van het departement）を見るかぎりでは、ベルギーでは、フランス語の département（そしてオランダ語の departement）は「省」あるいは「省内の組織」を表しているようである。とはいえ、その正確な意味は明白ではない。オランダ語 - 日本語辞典の【蘭和】を見ると、Departement van Buitenlandse Zaken <外務省> と Ministerie van Buitenlandse Zaken <外務省> となっているが、同じ時代に「外務省」を表す表現が2つ共存するとは考え難く、【蘭和】の誤りではないかと疑われる。

- (10) departement: område af centraladministrationen med en departementschef som leder. Et ministerium består af et el. flere *d*, visse dele af forvaltningen er underlagt direktorater. (*Gads Lille Leksikon*. 1993: 223-224)
- (11) departement: i Danmark afdeling af centraladministrationen; hvert af ministerierne, bortset fra Udenrigsministeriet, består af ét eller flere *d* med en departementschef i spidsen. (*Gyldendals Tibinds Leksikon*. bd. 2. 1983: 413)
- (12) departement: Øverste administrative organ i et ministerium. Et departement, hvoraf der i et ministerium kan være flere, tager sig af de overordnede og koordinerende opgaver, hvilket bl.a. er lovforberejdelse, budgetlægning, rådgivning og vejledning af ministeren. De ansatte er typisk jurister, økonomer m.fl., dvs. såkaldte generalister. Et departement ledes af en departementschef og er hierarkisk opbygget med en klar kommandostruktur fra top til bund, hvilket hænger sammen med, at det formelt er ministeren, der, som ansvarlig for hele ministeriet, træffer alle afgørelser. (*Samfundslex*. 1997: 63)
- (13) この段階では、これらの日本語訳は未定のものとして扱う。
- (14) Et ministerium består af et departement. Det ledes af departementschefen, der er øverste embedsmand under ministeren. Departementet er opdelt i kontorer med hver en kontorchef som leder. [...] I større ministerier er kontorerne samlet i afdelinger. (*Samfundsnøglen 1994/1995*. 1994: 11)
- (15) centraladministrationen: Betegnelse for den statslige forvaltning. I Danmark udgøres centraladministrationen samlet af de forskellige ministerier, der hver især er opdelt i et eller flere departementer, styrelser og direktorater (se figuren), og som formelt kun har kompetence til at administrere og anvende de love og regler, der besluttet i det politiske system.

Ministerstyre og partipolitisk neutralitet er de bærende principper i centraladministrationen. Ministerstyret betyder, at det er ministeren, der har ansvaret for administrationens embedsførelse, og den partipolitiske neutralitet betyder, at administrationen betjener den siddende regering uanset partifarve (i modsætning til fx. USA, hvor en stor del af centraladministrationen skiftes ud ved et præsidentskifte). Partipolitisk neutralitet er imidlertid ikke det samme som

politisk neutralitet, og reelt har centraladministrationens embedsmænd ret stor politisk indflydelse på lovgivningsprocessen.

Forberedelse og iværksættelse af en lovgivning er en politisk proces, især når det drejer sig om en rammeloavgivning. Udstedelse af bekendtgørelser og cirkulærer rummer således altid et element af skøn og fortolkninger. Desuden besidder embedsmændene en sagkundskab, som de færreste ministre kan hamle op med. Det kan bevirke, at ministerierne udvikler deres egen politik, som ikke ændres væsentligt af en ny ministers tiltræden. Omvendt kan embedsmændene også gå for langt i bestræbelserne på at føre en ministers politik igennem, således som det skete i Tamilsagen. (*Samfundslex*. 1997: 48-49)

- (16) 「内局」という表現を用いる数少ない例として、総合食料局国際企画課作成（平成 13 年 4 月 1 日）の「英文農林水産省組織・機構名」が農林水産省のホームページにあった (<http://www.maff.go.jp/org/organization.pdf>). そこでは、【内局】に大臣官房を筆頭に 4 局、【外局】に食糧庁、林野庁、水産庁の 3 庁が挙げられている。
- (17) 水谷利亮先生のご提案によるところが大きい。
- (18) デンマークの styrelse とスウェーデンの styrelse の位置付けに関して、ストックホルム滞在中の斉藤弥生先生に E メールでお話を伺うことができ、様々なご教示を頂いた。また、水谷利亮先生のご意見も伺うことができた。
- (19) direktorat: Forvaltningsorgan i et ministerium med specielle og/eller faglige opgaver. Selve betegnelsen: direktorat anvendes efterhånden sjældent; i stedet anvendes betegnelsen styrelse. (*Samfundslex*. 1997: 67)
- (20) Direktorat og Styrelser: Ministerierne har lagt en række specielle og teknisk prægede opgaver ud til særlige direktorater eller styrelser, der er samme type organ. De er underordnet et departement, men på grund af deres specielle karakter vil de dog ofte indtage en mere uafhængig stilling end de ministerielle kontorer.
Der er to typer direktorater og styrelser. Nogle er underordnet departementet, mens andre har direkte referat til ministeren på lige fod med departementschefen. (*Samfundsnøglen 1994/1995*. 1994: 11)
- (21) 現在では Beskæftigelsesministeriet と呼ばれる（本稿の p.74, p.76 を参照）。
- (22) styrelse: Forvaltningsorgan i et ministerium med specielle og/eller faglige opgaver. En styrelse (eller et direktorat) er som et departement hierarkisk opbygget og ledes af en direktør. Formelt er styrelsen/direktoratet underlagt departementet, men i praksis kan de være ligestillede. Styrelser/direktorater kan betegnes som ministeriernes mere fagspecifikke administration, og der er typisk ansat mange specialister, fx. biologer i Miljøstyrelsen og læger i »Sundhedsstyrelsen. Styrelser/direktorater kan opdeles i forskellige typer:
De sagkyndige, som varetager den statslige kontrol med et bestemt område. Det gælder fx. Sundhedsstyrelsen.
De alment kompetente, som står for den løbende administration af en bestemt del af

et ministeriums fagområde. Det gælder fx. Told- og Skattestyrelsen.

De blandede, dvs. såvel sagkyndige som alment kompetente. Det gælder fx. de forskellige styrelser/direktorater under arbejdsministeriet, bl.a. Arbejdsmarkedsstyrelsen og Direktoratet for Arbejdsløshedsforsikring. (*Samfundslex*. 1997: 346-347)

- (23) 古城・松下 (1993) では, styrelse を <政府, 行政官庁>, direktorat を <官庁の委員会 ; 理事会, 重役会> としている.
- (24) Ministersekretariatet er trafikministerens personlige sekretariat. Det hjælper ministeren med almindelige sekretærfunktioner, tilrettelæggelse og afvikling af møder og lignende. Ministersekretariatet varetager den daglige kontakt til regering, Folketing og presse. (<http://www.trm.dk/mindep/indhold.html>)
- (25) 省によっては, afdeling の代わりに center という名称を用いているものもある. 例えば, Beskæftigelsesministeriet <労働省> がそうであるが, center の長はやはり afdelingschef である (http://www.am.dk/organisation/depart_org_diagram.asp, http://www.am.dk/organisation/departementets_centrer.asp). また, afdeling の代わりに søjle [søjle はふつう <柱> という意味である] という名称を用いている Ministeriet for Videnskab, Teknologi og Udvikling <科学技術省> のような省もある (http://www.videnskabsministeriet.dk/cgi-bin/left-org-plan.cgi?doc_id=1980&doc_type=9). また, Kirkeministeriet <教会省> のように, 省の規模が小さいため, departement が afdeling から成っているのではなく, 複数の kontor から成っているものもある (http://www.km.dk/om_kirkemin/organisation.htm).
- (26) 西尾 (2001: 177) は水谷利亮先生のご指摘による.
- (27) 図 4 (p.79) の一番下の Forskning, udvikling og laboratorievirksomhed <研究・開発・研究所活動> のジャンルに挙げられている機関が「施設等機関」に相当するであろう.
- (28) デンマーク語では同一の名称が 2 つの異なったシステムの中で用いられる場合があり, その場合には, 日本語では 2 つの異なった訳語を当てなければならぬことがある. 例えば, borgmester がその例で, borgmester はふつうは kommune に 1 名しかおらず, <市長> と訳すが, Københavns Kommune <コペンハーゲン・コムーネ> の場合には, 一般の kommune の borgmester に相当するものとして overborgmester <大市長> が 1 名おり, これを補佐するものとして, 6 名の borgmester <副市長> がいる (大阪外国語大学デンマーク語・スウェーデン語研究室 2001: 22-23, 50-51). つまり, borgmester はシステムの違いによって <市長> と <副市長> の 2 つの日本語訳があることになる. これと同様に, departement もシステムの違いにより, 2 つの日本語訳が考えられ得る.

Omkring japansk oversættelse af *departement*, den danske betegnelse for en enhed i den centrale administration i Danmark

Toshihiro Shintani

Resumé

Sammen med professor Kunishiro Sugawara, hvis 60-års fødselsdag vi fejrer med dette nummer af *IDUN*, og professor emeritus Hideo Mase og adjunkt Yusuke Horii ved Osaka University arbejder jeg for tiden på en lille dansk-japansk ordbog. Ud af godt ti tusind opslagsord i denne ordbog er der nogle ord der er svære at oversætte til japansk. *Departement*, den danske betegnelse for en enhed i den centrale administration i Danmark, er netop et eksempel derpå, og det har jeg ikke kunnet finde ud af i mere end en snes år hvad man skal oversætte til japansk med.

I denne artikel forsøger jeg, med stor hjælp af associate professor Riaki Mizutani ved Kochi Junior College (forvaltning) og associate professor Yayoi Saito ved Osaka University (Svensk politik), at forklare hvad et *departement* er for noget, og dermed at finde dets japanske oversættelse.

参 考 文 献

- Dehn-Nielsen, Henning og Jens Stubkjær. 1984. *Værsgo': Danmark 1984*. København: Forlaget Aktuelle Bøger.
- Dehn-Nielsen, Henning og Jens Stubkjær. 1985. *Værsgo': Danmark 1985*. København: Forlaget Aktuelle Bøger.
- Gads Lille Leksikon. 1993. København: G.E.C.Gads Forlag.
- Gyldendals Tibinds Leksikon. bd. 2. 1983 (1977). København: Gyldendal.
- Hansen, Carsten Svane, Peter Nørbæk Hansen & Palle Qvist. 1997. *Samfundslex*. København: Gyldendal.
- Statens Information. 1994. *Samfundsnøglen 1994/1995*. København: Statens Information.
- 『朝日現代用語 知恵蔵 1991』. 1991. 東京：朝日新聞社.
- 『朝日現代用語 知恵蔵 2002』. 2002. 東京：朝日新聞社.
- 大阪外国語大学デンマーク語・スウェーデン語研究室編. 2001. 『スウェーデン・

- デンマーク福祉用語小辞典〔新装版〕. 東京：早稲田大学出版部。
 オロフ・ベタション著. 岡沢憲実監訳. 齊藤弥生・木下淑恵訳. 1998. 『北欧の政治 — デンマーク・フィンランド・アイスランド・ノルウェー・スウェーデン』. 東京：早稲田大学出版部。
 古城健志・松下正三編著. 1993. 『デンマーク語辞典』. 東京：大学書林。
 『情報・知識 imidas 2002』. 2002. 東京：集英社。
 新谷俊裕. 2001. 「デンマーク語（スウェーデン語・ノルウェー語）の海水魚類名称の日本語訳 — いわゆる“マイナー言語”の辞書作りの困難；英和辞典，独和辞典と比較しながら —」, 『大阪外国語大学論集』第24号. pp. 151-184.
 西尾勝. 2001. 『行政学 新版』. 東京：有斐閣。

辞書

- 【DAALF】= Rey, A. et J. Rey-Deboue (réd.). 1986 (1985). *Dictionnaire alphabétique et analogique de la langue française*. Nouvelle édition revue. (Le Petit Robert) Paris: Le Robert.
- 【DER】= Axelsen, Jens. 1995. *Dansk-engelsk ordbog*. 10. udg. (Gyldendals røde ordbøger) København: Gyldendal.
- 【DES】= Vinterberg, Hermann & C. A. Bodelsen. 1990. *Dansk-engelsk ordbog*. 3. udg. ved Viggo Hjørnager Pedersen. (Gyldendals store ordbøger) København: Gyldendal.
- 【DFR】= Sørensen, N. Chr. 1988 (1985). *Dansk-fransk ordbog*. 6. udg. 2. opl. (Gyldendals røde ordbøger) København: Gyldendal.
- 【DTR】= Bork, Egon. 1989 (1987). *Dansk-tyisk ordbog*. 9. udg. 3. opl. (Gyldendals røde ordbøger) København: Gyldendal.
- 【DTS】= Bergstrøm-Nielsen, Henrik, Henrik Lange & Henry Verner Larsen. 1991. *Dansk-tyisk ordbog*. (Munksgaards store ordbøger) København: Munksgaard.
- 【NDE】= Becker-Christensen, Christian *et al.* (red.). 1999. *Politikens Nudansk Ordbog med etymologi*. 1. udg. København: Politikens Forlag.
- 【NDO】= Becker-Christensen, Christian & Peter Widell (red.). 1995. *Politikens Nudansk Ordbog & Sprogbrugsleksikon*. 15. udg. København: Politikens Forlag.
- 【ODS】= Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. 1975 (1921). *Ordbog over det danske Sprog*. 3. bind. København: Gyldendal.
- 【SNND0】= Becker-Christensen, Christian *et al.* (red.). 1997 (1996). *Politikens Store Nye Nudansk Ordbog*. 1. udg. 2. opl. København: Politikens Forlag.
- 【英和ジ】= 小西友七編集主幹. 1999 (1988). 『ジーニアス英和辞典』. 改訂版第6版. 東京：大修館書店。
- 【英和中】= 竹林滋ほか編. 1994. 『新英和中辞典』. 第6版. 東京：研究社。
- 【デ和】= 古城健志・松下正三編著. 1993. 『デンマーク語辞典』. 東京：大学書林。
- 【独和大】= 国松孝二ほか編. 1990. (1985). 『小学館 独和大辞典(コンパクト版)』. 東京：小学館。

- 【独和マ】= 戸川敬一ほか. 1992. 『マイスター独和辞典』. 東京：大修館書店.
【フ語大】= 山下直文ほか編. 1983. 『最新フランス語大辞典』. 東京：三笠書房.
【仏和大】= 伊吹武彦ほか編. 1986 (1981). 『仏和大辞典』. 第4版. 東京：白水社.
【仏和中】= 田村毅ほか編. 1993 (1985). 『ロワイヤル仏和中辞典』. 東京：旺文社.
【蘭和】= P.G.J. van Sterkenburg, W.J. Boot, 財団法人日蘭学会監修. 1994. 『講談社オランダ語辞典』. 東京：講談社.
【ロ仏和大】= 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編. 1988. 『小学館ロベール仏和大辞典』. 東京：小学館.
【和英中】= 近藤いね子・高野フミ編. 1988 (1986). 『小学館プログレッシブ和英中辞典』. 東京：小学館.

インターネット上のホームページ (2002 年 5 月現在)

<http://www.am.dk/english/ministry/organisation/default.asp>
http://www.am.dk/organisation/depart_orgdiagram.asp
http://www.am.dk/organisation/departementets_centrer.asp
http://www.am.dk/organisation/minis_orgdiagram.asp?id=Organisation&mtop=1&mlft=3&thgt=4
<http://www.env.go.jp/guide/gyomu/index.html>
http://www.fmn.dk/index.asp?cat_id=253
http://www.fmn.dk/inhold.asp?cat_id=251
http://www.fvm.dk/fvm_uk/high_final_uk_full.asp?page_id=227
http://www.fvm.dk/ministeriet_organisation.asp?page_id=63
<http://www.jm.dk/wimpdoc.asp?page=document&objno=50012>
http://www.km.dk/om_kirkemin/organisation.htm
<http://www.maff.go.jp/org/organization.pdf>
<http://www.meti.go.jp/intro/aboutmeti/index.html>
<http://www.mlit.go.jp/annai/annai.html>
<http://www.mof.go.jp/mof/meisho.htm>
<http://www.mof.go.jp/mof/zaimusyoa.htm>
<http://www.recherche.gouv.fr/site/organig/techno.htm>
<http://www.skat.dk/deutsch/steuerministerium.htm>
<http://www.skat.dk/francais/leministere.htm>
<http://www.sm.dk/eng/ministeriet/struktur/indhold.html>
<http://www.trm.dk/mindep/departement.html>
<http://www.trm.dk/mindep/indhold.html>
<http://www.um.dk/udenrigstjenesten/dksep.PDF>
<http://www.um.dk/udenrigstjenesten/uksep.01.PDF>
<http://www.uvm.dk/eng/ministry/structure/departementet.htm>
<http://www.uvm.dk/eng/ministry/structure/hovedstruktur.htm>
<http://www.uvm.dk/minist/struktur/dep.html>
http://www.videnskabsministeriet.dk/cgi-bin/left-org-plan.cgi?doc_id=1980&doc_type=9